

【 企 業 動 向 調 査 （ 建 設 業 ） 概 況 】

2026 年 4 月～6 月期の企業動向調査（市内建設業 39 社）を行った結果、業況判断指数 D I は ▲ 9.5 ポイントとなりました。

前期調査結果（2026 年 1 月～3 月：▲ 15.8 ポイント）と比較して 6.3 ポイント好転しました。

その他経営上の問題については、「原材料や仕入品単価の上昇」「人材不足」「受注の減少」などの意見がありました。

1 業種別の業況判断前期比 D I

業種	前期比 D I	前期との差
土木関係	▲ 20.0	55.0
建築関係	40.0	23.3
電機関係	▲ 16.7	16.6
水道関係	▲ 40.0	▲ 73.3

2 業種別の次期予想 D I （2026 年 7 月～9 月）

次期予想は▲ 28.6 ポイントで、今期調査結果(▲ 9.5)より、19.1 ポイント悪化する予想となりました。

業種	次期予想 D I	今期との差
土木関係	0.0	20.0
建築関係	0.0	23.3
電機関係	▲ 66.7	▲ 50.0
水道関係	▲ 40.0	0.0

3 経営上の主な問題点

	問題点	割合
1 位	原材料・仕入品単価の上昇	66.7%
2 位	人材不足（技術者等質的なもの）	52.4%
3 位	受注の減少	42.9%
4 位	原材料不足	38.1%
5 位	労働力不足（量的なもの）	28.6%

企 業 動 向 調 査

【 2026 年 4 月～ 6 月期 <二期> 】

【調 査 概 要】

須坂市産業振興部産業政策課では、市内建設業の景気動向を探る手段として、年 4 回市内企業を対象にアンケート調査を実施している。

今回は 2026 年 4 月～ 6 月期<二期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実 施 時 期 2026 年 7 月

対 象 企 業 須坂市内に本社または事業所を有する建設業企業 39 社

回答企業数 21 社 （回答率 53.8%）

【調 査 結 果】

自社業況判断 （D I = 好転－悪化）

	好転	悪化	D I	比較
前期比	14.3% (前期 10.5%)	23.8% (前期 26.3%)	▲ 9.5	前期より 6.3 ポイント 好転
前年同期比	9.5% (前期 15.8%)	38.1% (前期 21.1%)	▲ 28.6	前期より 23.3 ポイント 悪化
次期予想	19.0%	47.6%	▲ 28.6	今期より 19.1 ポイント 悪化と予想

受 注 引 合 （D I = 増加－減少）

	増加	減少	D I	比較
前期比	19.0% (前期 10.5%)	33.3% (前期 31.6%)	▲ 14.3	前期より 6.8 ポイント 増加
前年同期比	19.0% (前期 10.5%)	38.1% (前期 31.6%)	▲ 19.1	前期より 2.0 ポイント 増加
次期予想	19.0%	42.9%	▲ 23.9	今期より 9.6 ポイント 減少と予想

生 産 量 （D I = 増加－減少）

	増加	減少	D I	比較
前期比	28.6% (前期 6.3%)	23.8% (前期 18.8%)	4.8	前期より 17.3 ポイント 増加
前年同期比	19.0% (前期 18.8%)	19.0% (前期 12.5%)	0.0	前期より 6.3 ポイント 減少
次期予想	38.1%	23.8%	14.3	今期より 9.5 ポイント 増加と予想

原材料単価 (D I = 低下－上昇)

	低下	上昇	D I	比較
前期比	0.0% (前期 0.0%)	81.0% (前期 100.0%)	▲ 81.0	前期より 19.0 ポイント 好転
前年同期比	0.0% (前期 0.0%)	90.5% (前期 100.0%)	▲ 90.5	前期より 9.5 ポイント 好転
次期予想	0.0%	85.7%	▲ 85.7	今期より 4.7 ポイント 悪化と予想

資金繰り (D I = 好転－悪化)

	好転	悪化	D I	比較
前期比	0.0% (前期 0.0%)	0.0% (前期 0.0%)	0.0	前期より 0.0 ポイント 好転
前年同期比	0.0% (前期 0.0%)	0.0% (前期 0.0%)	0.0	前期より 0.0 ポイント 好転
次期予想	0.0%	0.0%	0.0	今期より 0.0 ポイント 好転と予想

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

	増加	減少	D I	比較
前期比	9.5% (前期 5.3%)	28.6% (前期 26.3%)	▲ 19.1	前期より 1.9 ポイント 増加
前年同期比	14.3% (前期 10.5%)	19.0% (前期 15.8%)	▲ 4.7	前期より 0.6 ポイント 増加
次期予想	14.3%	23.8%	▲ 9.5	今期より 9.6 ポイント 増加と予想

収益率 (D I = 上昇－低下)

	上昇	低下	D I	比較
前期比	0.0% (前期 0.0%)	0.0% (前期 0.0%)	0.0	前期より 0.0 ポイント 上昇
前年同期比	0.0% (前期 0.0%)	0.0% (前期 0.0%)	0.0	前期より 0.0 ポイント 上昇
次期予想	0.0%	0.0%	0.0	今期より 0.0 ポイント 上昇と予想

経営上の問題点（複数回答）

	問題点	割合	前回比較
1 位	原材料・仕入品単価の上昇	66.7%	→
2 位	人材不足(技術者等質的なもの)	52.4%	↑
3 位	受注の減少	42.9%	→
4 位	原材料不足	38.1%	↓
5 位	労働力不足(量的なもの)	28.6%	→
6 位	技術力の不足	23.8%	↓
7 位	同業他社との競争激化	19.0%	→
8 位	納期の短縮	9.5%	↑
9 位	人員過剰	0.0%	→
9 位	金融難	0.0%	↓

※「↑」前回の順位から上昇 「→」前回の順位から変動なし
「↓」前回の順位から下降

業種別自社業況判断／土木関係

	好転	悪化	D I	比較
前期比	0.0% (前期 0.0%)	20.0% (前期 75.0%)	▲ 20.0	前期より 55.0 ポイント 好転
前年同期比	0.0% (前期 0.0%)	20.0% (前期 25.0%)	▲ 20.0	前期より 5.0 ポイント 好転
次期予想	40.0%	40.0%	0.0	今期より 20.0 ポイント 好転と予想

業種別自社業況判断／建築関係

	好転	悪化	D I	比較
前期比	40.0% (前期 16.7%)	0.0% (前期 0.0%)	40.0	前期より 23.3 ポイント 好転
前年同期比	20.0% (前期 33.3%)	20.0% (前期 0.0%)	0.0	前期より 33.3 ポイント 悪化
次期予想	20.0%	20.0%	0.0	今期より 40.0 ポイント 悪化と予想

業種別自社業況判断／電機関係

	好転	悪化	D I	比較
前期比	0.0% (前期 0.0%)	16.7% (前期 33.3%)	▲ 16.7	前期より 16.6 ポイント 好転
前年同期比	0.0% (前期 0.0%)	50.0% (前期 50.0%)	▲ 50.0	前期より 0.0 ポイント 好転
次期予想	0.0%	66.7%	▲ 66.7	今期より 50.0 ポイント 悪化と予想

業種別自社業況判断／水道関係

	好転	悪化	D I	比較
前期比	20.0% (前期 33.3%)	60.0% (前期 0.0%)	▲ 40.0	前期より 73.3 ポイント 悪化
前年同期比	20.0% (前期 33.3%)	60.0% (前期 0.0%)	▲ 40.0	前期より 73.3 ポイント 悪化
次期予想	20.0%	60.0%	▲ 40.0	今期より 0.0 ポイント 好転と予想

Q10 日銀松本支店が7月1日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数は（DI）は、前回調査（4月）と比較して、2ポイントプラスとなりました。製造業は、マイナス9ポイントと横ばい、非製造業は、プラス15ポイントと1ポイント好転しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

好転している	4.8%
今はないが、今後好転が見込まれる	9.5%
変わらない	42.9%
今はないが、今後悪化が見込まれる	19.0%
悪化している	23.8%

Q11 貴社では、働き方改革に関してどのような取り組みを実施していますか。
該当するものをすべてお選びください。（複数回答可）

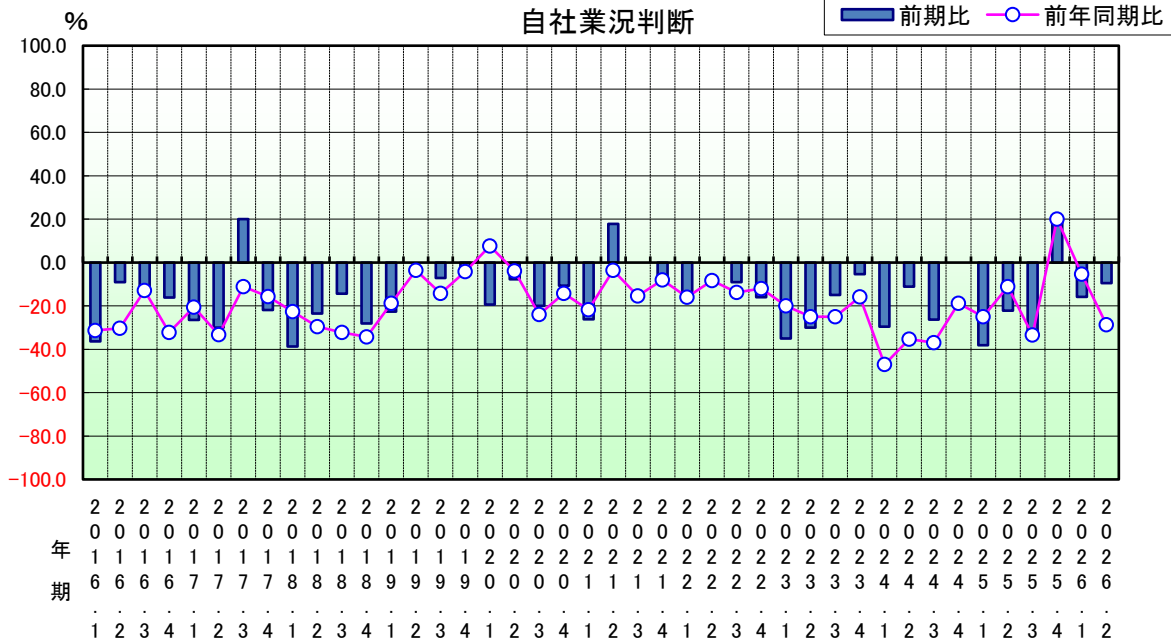
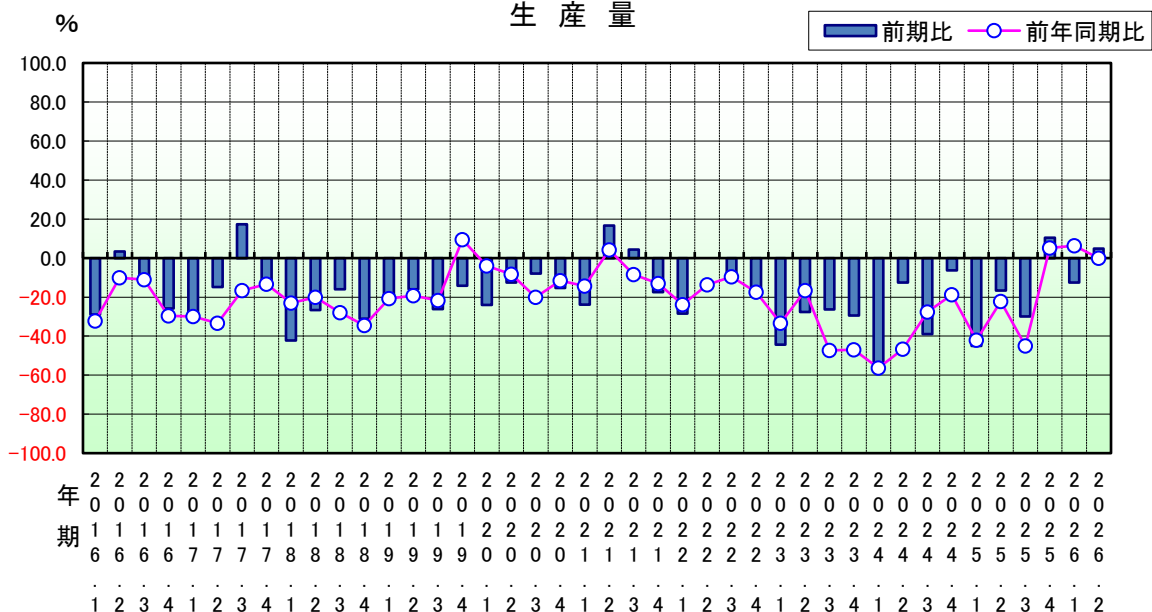
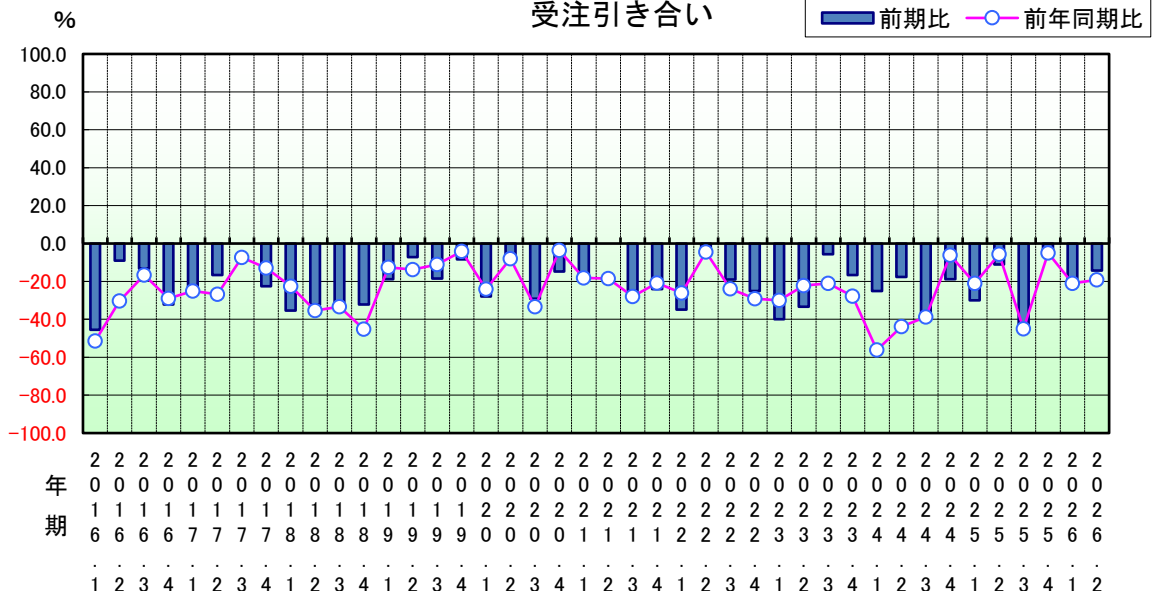
残業時間の削減	52.4%
年次有給休暇の取得促進	47.6%
柔軟な勤務（フレックス、時差出勤、短時間勤務など）	9.5%
業務の効率化（IT 機器・ソフトの導入、作業手順の見直しなど）	28.6%
一人で複数の作業をこなせる人材育成（多能工化）	23.8%
育児・介護をしながら働ける環境づくり	19.0%
賃金・処遇の改善	42.9%
特に取り組んでいない	9.5%
その他	0.0%

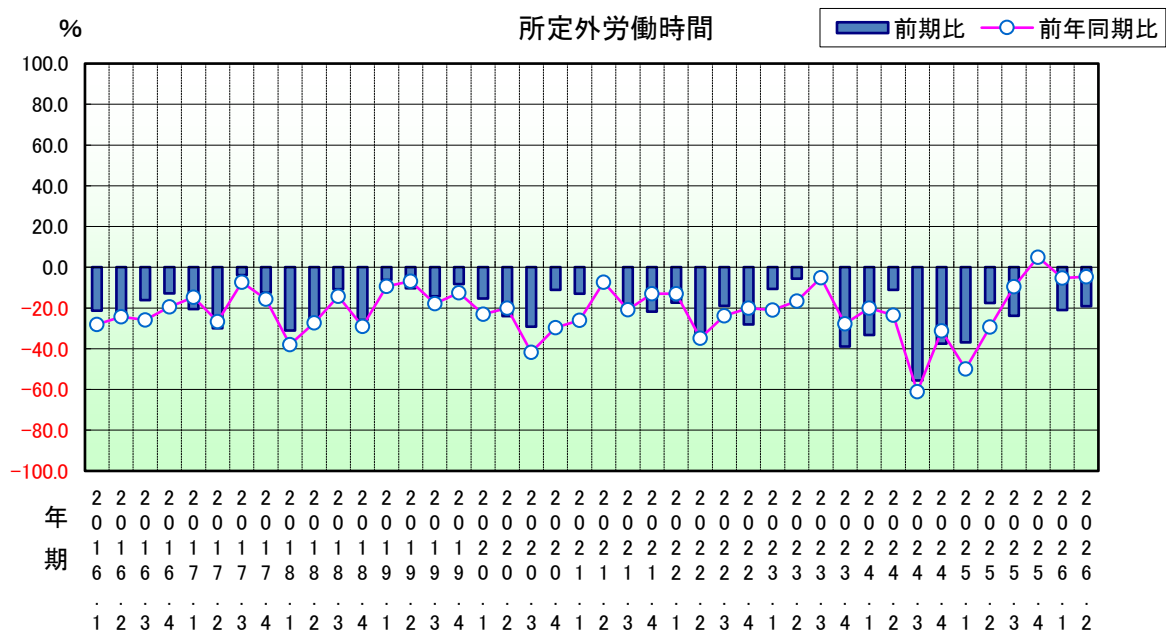
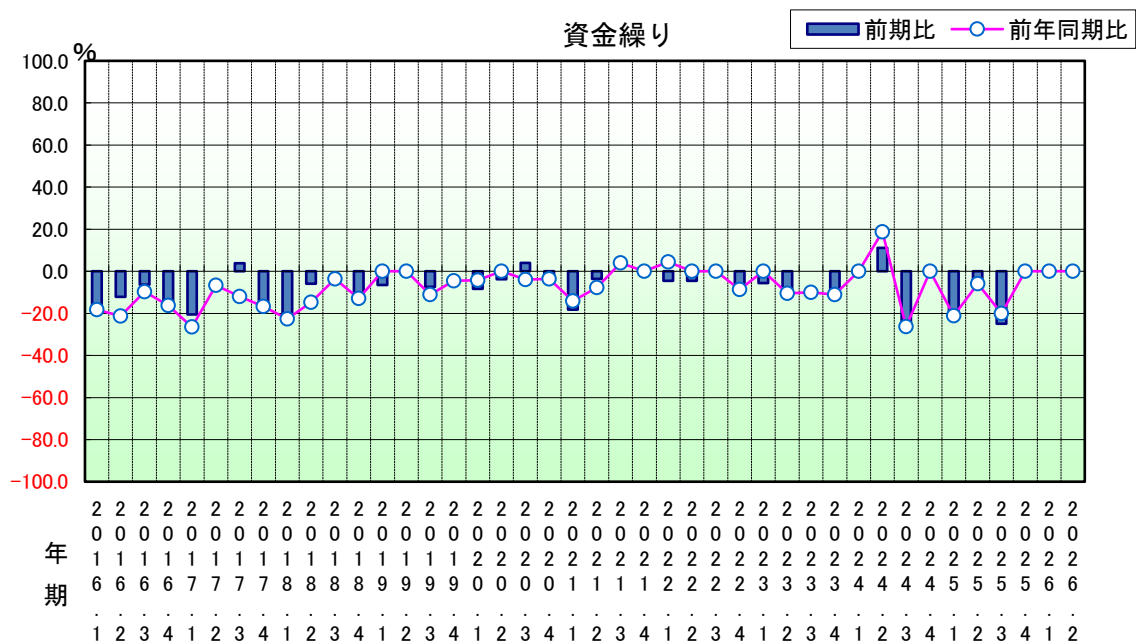
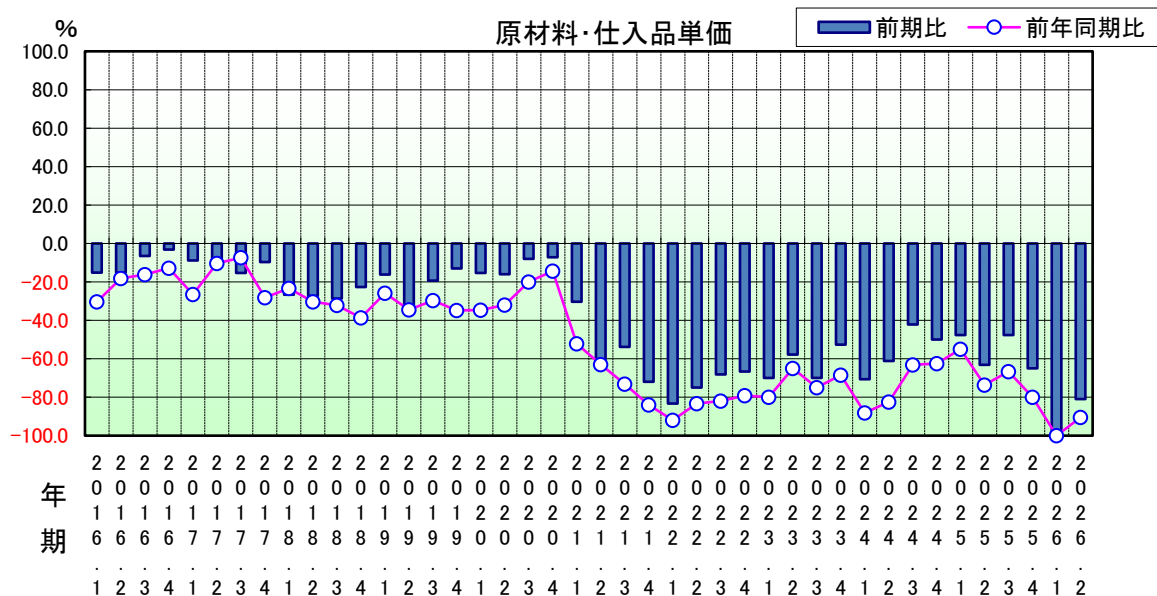
Q12 働き方改革に取り組んだ（または取り組もうとした）一番の目的は何ですか。

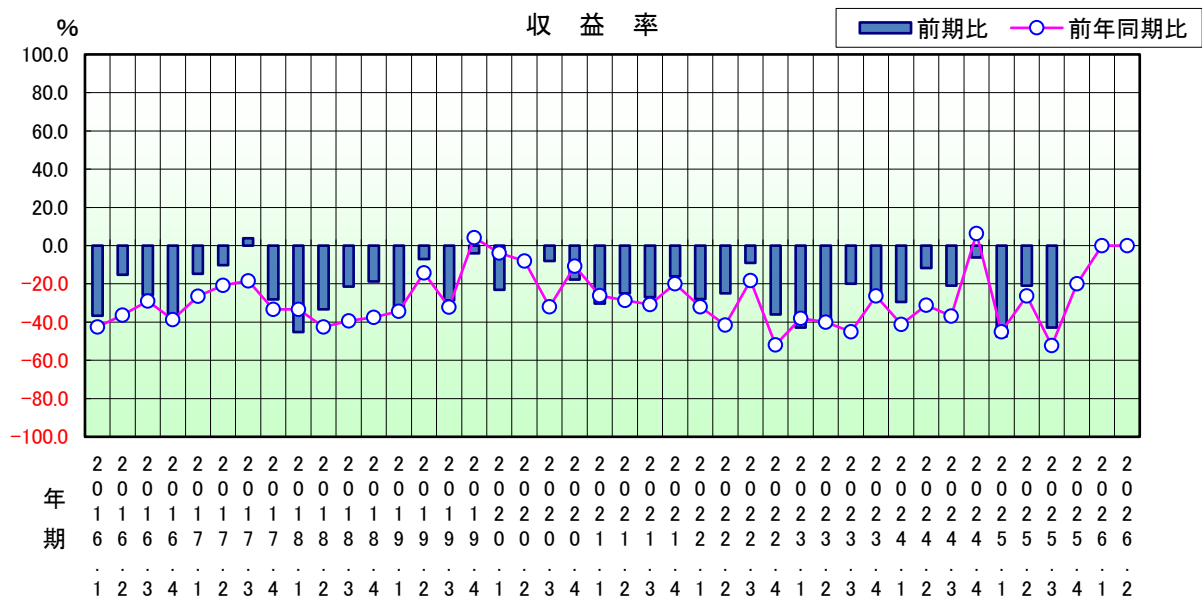
人材の確保・離職防止のため	61.9%
法令（残業上限規制など）に対応するため	14.3%
生産性・業務効率を高めるため	4.8%
従業員の要望に応えるため	9.5%
取引先・社会的な要請のため	0.0%
特に取り組んでいない	9.5%
その他	0.0%

Q13 その他経営上の課題

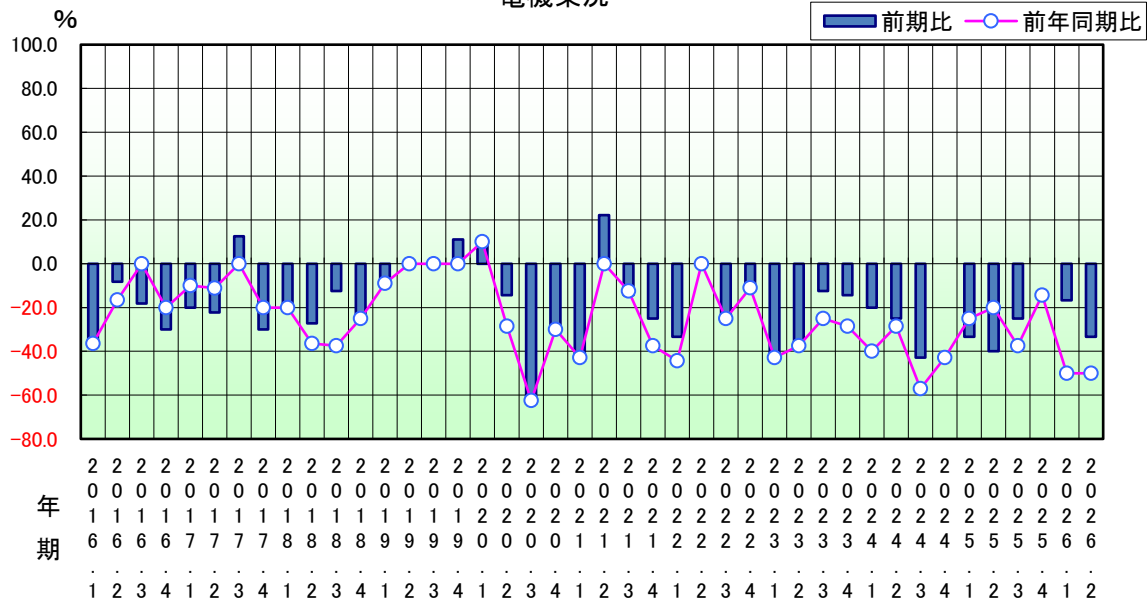
- 例年春先は現場の仕事が少ない傾向だが、今年の中東情勢の影響もあってか、その期間が長引いていると感じる。
- 資材等の高騰による利益の圧迫
- 次期は重伝建の物件が2件あり、工期がないため、いそがしくなりそう。
- 須坂市の予算縮小（市内業務の縮小）と、ナフサショック（近隣市町村の発注手控え）の影響が大きいです。それらの外部環境に偏らない経営を模索しています。
- 地元の建設工事が少ないため、多方面へ行かざるを得ないが、地元で働きたい従業員の希望を叶えられない







電機業況



水道施設業況

